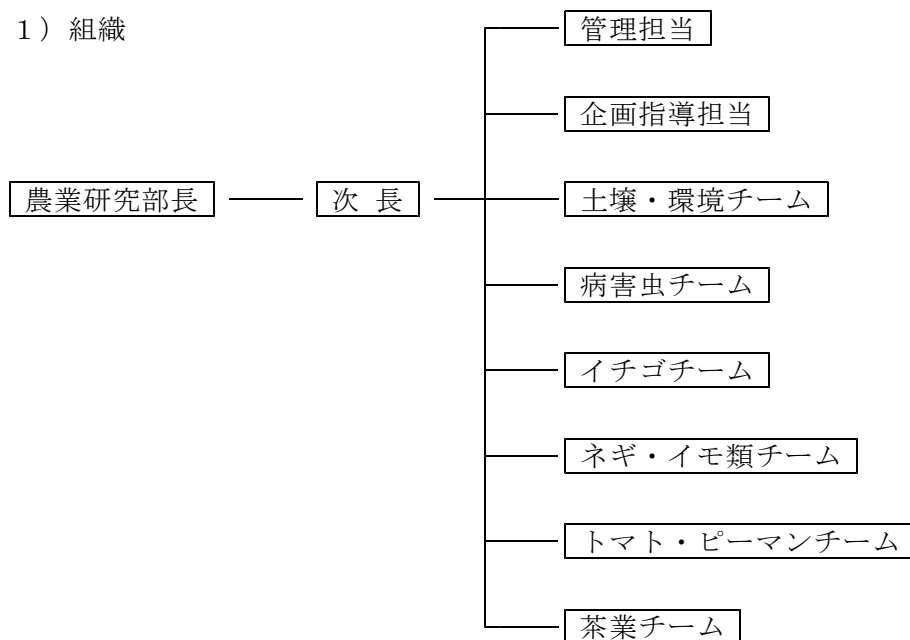


## II-1 農業研究部

### 1. 組織および職員配置状況

#### 1) 組織



#### 2) 職員配置状況

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部長			1					1	
次長		1						1	兼務
管理担当		5					1	6	
企画指導担当			6					6	広域普及指導員 3
土壌・環境チーム			6		1			7	
病害虫チーム			9					9	
イチゴチーム			6	1	1			8	
ネギ・イモ類チーム			4					4	
トマト・ピーマンチーム			5	1		1		7	
茶業チーム			2	1				3	
計		6	39	3	2	1	1	52	

### 2. 業務

- ①農産物の安全安心に関する研究
- ②環境に優しい農業生産技術
- ③病害虫管理技術及び土壌管理技術
- ④植物検疫、病害虫発生予察情報、気象情報等の情報発信
- ⑤イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の品種選定・品種保存・育種
- ⑥イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の高品質、省力・低コスト栽培技術
- ⑦バイオテクノロジー手法を用いた品種判別技術
- ⑧農産物の安全安心・病害虫管理・各種野菜生産等に関する既開発技術の現地移転ならびに指導者・生産者に対する指導

### 3. 試験研究課題

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
<b>I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発</b>				
1 ブランド化のための技術開発				
県間連携によるイチゴ新品種の育成				
1) 県間連携による品種育成と栽培技術の確立				
(1) 母本特性評価	イチゴチーム	山口県、鳥取県、九冲農研セ	H25～27	県単
(2) 組合せ能力検定	〃	〃	〃	〃
(3) 選抜	〃	山口県、鳥取県、島根県	〃	〃
2) 育種期間短縮のための交配、選抜方法の確立				
(1) 育種期間短縮のための交配方法の確立	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
(2) 育種期間短縮のための選抜、評価方法の確立	〃	〃	〃	〃
(3) 短縮技術を用いた交配、選抜による有望系統の育成				
ア) 実生系統選抜、二次系統選抜、三次系統選抜	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
イ) 四次系統選抜	〃	〃	〃	〃
ウ) 五次系統選抜の栽培技術	〃	イチゴ品種育成支援プロ	〃	〃
エ) 育成系統「大分5号」の栽培技術	〃	〃	〃	〃
オ) 育成系統「大分5号」の地域適応性試験	〃	イチゴ品種育成支援プロ、各振興局	〃	〃
DNAマーカーを用いた県育成品種識別法と効率的選抜育種技術の開発				
1) わい性トルコギキョウ品種の識別技術確立	イチゴチーム	花きグループ	H26～28	県単
2) 立枯病害抵抗性選抜マーカーの作成				
(1) 立枯病害抵抗性遺伝様式の解明	イチゴチーム	花きグループ	H26～28	県単
ホオズキの需要に即した優良系統選抜と効率的な種苗生産技術の確立				
3) 薬培養条件の検討	イチゴチーム	花きグループ	H26	県単

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
栽培情報モニタリングによるイチゴ最適管理技術				
1) 栽培環境が単収に及ぼす影響調査				
(1) 頂果房と第一次腋果防の出蕾時期と花数に及ぼす要因解明	イチゴチーム	九州大学、産科技セ	H25～27	県単
(2) 液肥濃度が生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(3) 排液率及び灌水方法が生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(4) 元肥による排液ECの違いが生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
2) 生産現場における単収決定要因の分析（現地調査）	〃	〃	〃	〃
3) ITを活用した栽培情報モニタリングシステムの開発支援	〃	〃	〃	〃
4) 現地実証	〃	産科技セ、広域普及指導員、各振興局	〃	〃
安全生産技術に対する研究				
1) 普通作物の病害虫防除対策				
(1) 水稲病害虫防除の効率化	病害虫チーム	なし	H25～27	委託
2) 野菜類の病害虫防除対策				
(1) 野菜類の害虫防除対策	病害虫チーム	なし	H26～28	県単、一部委託
(2) 野菜類の病害防除対策	〃	〃	長期	〃
夏秋トマトのすすかび病と線虫類の防除対策				
1) すすかび病の防除対策				
(1) 発生実態の解明	病害虫チーム	豊肥振興局、西部振興局	H26～28	県単
(2) 品種間、硝酸濃度との関係	〃	トマト・ピーマンチーム	〃	〃
(3) 発病と環境要因との関係	〃	〃	〃	〃
2) 線虫対策				
(1) 発生実態の解明	病害虫チーム	豊肥振興局、西部振興局		県単
(2) 防除対策の確立				
① 液剤の灌注時期	病害虫チーム	豊肥振興局	H26～28	県単
② 粒剤の防除効果比較	〃	なし	〃	〃

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
小ネギの冬期増収に向けた栽培技術の改善				
1) 栽培基準の見直し				
(1) 播種量の検討	ネギ・イモ類チーム	土壌・環境チーム	H25～27	県単
(2) 施肥量の検討	〃	〃	〃	〃
2) 冬期栽培に適した施肥技術の検討				
(1) 施肥方法の検討				
② 追肥の時期	ネギ・イモ類チーム	土壌・環境チーム	H25～27	県単
(2) 施用する窒素形態の検討	土壌・環境チーム	ネギ・イモ類チーム	H25～27	県単
ニラの作型改善のための品質、収量向上技術の確立				
1) 作期の前進化による収量確保				
(1) 定植時期、保温技術の検討	ネギ・イモ類チーム	なし	H25～27	県単
(2) 品種、播種時期の検討	〃	〃	〃	〃
2) 品質低下防止技術				
(1) 遮光資材の利用技術の検討	ネギ・イモ類チーム	なし	H25～27	県単
根深ネギの大規模経営体のための周年安定生産技術の確立				
1) 平坦地での秋冬ネギの安定生産技術の確立				
(1) セル大苗利用による秋冬ネギ安定生産技術 現地試験				
① 品種及び盛夏期の肥培管理の生育、終了に及ぼす影響	ネギ・イモ類チーム	北部振興局	H24～26	県単
② 7月定植における品種及び育苗日数が生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(2) セル大苗利用による秋冬ネギ安定生産技術 場内試験				
① 盛夏期の肥培管理が生育、収量に及ぼす影響	ネギ・イモ類チーム	なし	H24～26	県単
② 品種が生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
大分ブランド高品質カンショ「甘太くん」の安定生産技術の確立				
1) 栽培管理技術				
(1) 土壌理化学生改良技術の確立	ネギ・イモ類チーム	土壌・環境チーム、中部振興局、豊肥振興局、JAおおいた、全農おおいた	H24～26	県単
2) 貯蔵管理技術				
(1) 糖度安定向上技術の確立 ①低温処理	ネギ・イモ類チーム	中部振興局、豊肥振興局、JAおおいた、産業科学技術センター	H24～26	県単
(1) 糖度安定向上技術の確立 ②糖度測定法	〃	(株)クボタ	〃	〃
(2) 腐敗果軽減技術	〃	中部振興局、豊肥振興局、JAおおいた、病害虫チーム	〃	〃
(3) 低温遭遇時間	〃	〃	〃	〃

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
イチゴのうどんこ病とクロバネキノコバエ類の防除対策				
1) うどんこ病の予防体系の確立				
(1) 無病苗の選抜法の確立	病害虫チーム	イチゴチーム	H24～26	県単
(3) 現地実証試験	〃	各振興局	〃	〃
2) クロバネキノコバエ類の防除対策				
(4) 防除効果試験	病害虫チーム	各振興局	H24～26	県単
病害虫発生予察事業				
2) 発生予察技術支援対策				
(1) 薬剤感受性検定およびウイルス保毒虫率の検定	病害虫チーム	各振興局	H25～27	県単、一部 国庫
(2) 発生予察調査実施基準の手法検討	〃	各振興局	H23～28	国庫
農薬残留特殊調査（マイナー作物への登録拡大）	病害虫チーム	土壌・環境 チーム、温 州ミカン チーム、中 部振興局、 東部振興 局、北部振 興局	H25～27	県単、一部 国庫
根深ネギに突発的に発生するネダニ類の防除対策				
1) 発生実態調査	病害虫チーム	各振興局	H24～26	県単、一部 委託
(1) ネダニ類の生育密度がネギに及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
3) 防除技術の確立	〃	〃	〃	〃
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
緑茶飲料茶、「おおい茶グリーン」の収量、品質向上技術の確立				
1) 新需要に対応した多収安定生産技術の開発				
(1) 摘採適期予測技術の開発	茶業チーム	なし	H25～27	県単
(2) 主要品種の秋冬番茶加工適正の解明	〃	〃	〃	〃
(3) 気象データの収集と最終摘採時期の解明	〃	〃	〃	〃
2) 「おおい茶」ブランド確立に向けた被覆栽培技術の高度化				
(1) 被覆・摘採適期判断技術	茶業チーム	なし	H25～27	県単
(2) 品種毎の被覆適応性解明	〃	〃	〃	〃
(3) 高品質茶園の要因分析	〃	研究普及課	〃	〃
3) 栄養性適応性試験				
(1) 旧系適12群 (2) 旧系適13群 (3) 茶育成系統1群	茶業チーム	(独) 野茶研	H25～27	県単
「いつでも！大分産トマト」を目指した、省力・最適栽培管理技術の確立				
1) 安定生産のための省力・出荷量平準化栽培技術の確立（夏秋）				
(1) 中段密植栽培による出荷量平準化技術の確立	トマト・ ピーマン チーム	なし	H26～28	県単
(2) かん水施肥栽培システムの高機能化による出荷量平準化栽培技術の確立				
① 飽差管理の検討	トマト・ ピーマン チーム	なし	H26～28	県単
② 新大分方式かん水施肥装置の開発	〃	(有) 平田電 気計装	〃	〃

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
2) 最適栽培管理技術の確立				
(1) 軟果対策技術の確立 (冬春トマト・主枝更新)	トマト・ピーマンチーム	なし	H26～28	県単
(2) 軟果対策技術の確立 (周年高糖度栽培・ストレス処理)	〃	〃	〃	〃
(3) 環境統合制御の確立 (冬春トマト)	〃	〃	〃	〃
(4) 環境統合制御の確立 (周年高糖度栽培)	〃	〃	〃	〃
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
チャの病害虫防除に関する試験				
1) チャの主要病害虫の発生予察に関する試験				
(1) 主要病害虫に対する発生状況調査	茶業チーム	東部振興局、中部振興局、北部振興局	長期	県単
(2) チョウ目害虫、クワシロカイガラムシ等の発生予察調査	〃	〃	〃	県単
2) チャの主要病害虫を対象とした委託試験				
(1) チャトゲコナジラミ チャノココクモンハマキ カンザワハダニ チャトゲコナジラミ秋季における効果的薬剤の使用法	茶業チーム	東部振興局、中部振興局、日植防、九防協	H26～28	県単、一部委託
3) チャの病害虫防除対策試験				
(1) 主要病害虫の薬剤感受性検定				
チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ (予備試験)	茶業チーム	中部振興局、豊肥振興局、北部振興局	H26～28	県単
西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立				
1 温暖化に対応した栽培技術の確立				
1) 高温対策技術の開発				
(1) 合理的なかん水方法の確立 (摘葉)	トマト・ピーマンチーム	土壌・環境チーム	H24～26	県単
(2) 合理的なかん水方法の確立 (かん水時間)	〃	〃	〃	〃
(3) 高温耐性品種の選定	〃	なし	〃	〃
2) 防虫ネット全面展張方法の改良	〃	病害虫チーム	〃	〃
西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立				
2 温暖化等気象変動に対応した夏秋ピーマンの水・肥培管理技術の確立				
(1) 生育ステージに応じた適正な水管理条件の検討	土壌・環境チーム	トマト・ピーマンチーム	H24～26	県単
(2) 各産地における水管理実態調査	〃	ピーマンPT班	〃	〃
2) 気象変動に対応した肥培管理技術の検討				
(1) スターター肥料と緩効性被覆肥料組み合わせの検討	土壌・環境チーム	トマト・ピーマンチーム	H24～26	県単
(2) 現地実証試験	〃	トマト・ピーマンチーム	H24～26	県単

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立 3 夏秋ピーマンにおいて近年顕在化したタバコガ類と白絹病に対する防除技術の確立				
1) タバコガ類の防除対策				
(1) タバコガ類種構成調査	病虫害チーム	広域普及指導班、中部振興局	H24～26	県単、一部国庫
(3) 有効な薬剤の探索	〃	トマト・ピーマンチーム	〃	〃
2) 白絹病の防除対策				
(1) 防除技術の確立	病虫害チーム	中部振興局、日本化薬(株)	H24～26	県単
(1) 防除技術の確立(土壌くん蒸剤の有効範囲)	〃	なし	〃	〃
(2) 防虫ネット展張ハウスでの総合防除対策	〃	トマト・ピーマンチーム、広域普及指導班、中部、豊肥振興局、JA大分	〃	県単、一部国庫
農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業	土壌・環境チーム	全振興局、畜産技術室	H25～32	国庫委託
5 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発				
製鋼スラグを利用した火山灰土壌(黒ボク土)のリン酸利用効率向上技術の開発				
1) リン酸利用効率の検討	土壌・環境チーム	関係振興局	H25～27	県単
2) 環境負荷への影響の検討	〃	〃	〃	〃
3) 現地実証試験	〃	〃	〃	〃
平坦地への作付け拡大に向けた水稻品種「つや姫」の高品質・安定生産				
2) 施肥基準の確立				
(1) 施肥技術				
①分施肥系における窒素吸収量の解明	土壌・環境チーム	水田農業グループ	H25～27	県単
②全量元肥系における窒素吸収量の解明	〃	〃	〃	〃
<b>II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立</b>				
イチゴのウイルスフリー苗の育成	イチゴチーム	病虫害チーム	長期	県単
カンショの茎頂培養によるウイルスフリー苗とサトイモ優良種苗保存育成	ネギ・イモ類チーム	イチゴチーム	〃	〃
カンショの品種選定	〃	九州沖縄農業研究センター	〃	〃

#### 4. 研究成果等の公表及び情報発信

##### (1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成25年度農業研究部試験研究成績書	H26.6月	372	50
大分県農林水産研究指導センター研究報告 (農業研究部編) 第5号	H27.3.31	53	150
平成26年度植物防疫事業成績書	H27.3.31	70	300

##### (2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
岡崎真一郎、大坪亮介、加藤幸太郎	大分県の夏秋ピーマンにおけるミカンキイロアザミウマ個体群の殺虫効果とスピノサド感受性低下個体群の初確認	九州病害虫研究会報	60	79-83
安部貞昭、中尾浩明、佐藤如、山崎真居	炭酸ガス施用がイチゴ‘さがほのか’の生育や果実肥大に及ぼす影響	園芸学研究	第13巻別冊2	439
江藤真美子、藤谷信二	年2作型に着目したトマトの周年栽培体系の確立	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第77回	137

##### (3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H26.6.4	日本植物病理学会第24回殺菌剤耐性研究会シンポジウム	鈴木智範・雨川公洋・岡本潤・福本律子・後藤英世	大分県におけるQoI剤耐性イネいもち病菌の発生実態
H26.6.12	佐伯市 野菜を学ぶ研修会	奈良絵美	伝統野菜、地方野菜
H26.9.4	九州農業研究発表会	江藤真美子	年2作型に着目したトマトの周年栽培体系の確立
H26.9.29	園芸学会平成26年秋季大会	安部貞昭	炭酸ガス施用がイチゴ‘さがほのか’の生育や果実肥大に及ぼす影響
H26.10.2	九州沖縄農業試験研究推進会議 茶業推進部会研究会	佐藤郁	大分県の茶生産と試験研究
H26.10.2	九州沖縄農業試験研究推進会議 茶業推進部会研究会	伊藤玲央	大分県におけるチャトゲコナジラミの分布拡大状況と対策について



発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H26. 11. 1	野菜の学校2014「日本の伝統野菜・地方野菜」	奈良絵美	大分県の地元ゆかりの野菜たち
H26. 11. 12	九州病害虫研究会第88回研究発表会	岡崎真一郎	特別講演：トマト黄化えそウイルス (TSWV) と媒介種であるミカンキイロアザミウマの総合防除に関する研究
H26. 11. 29	大分学研究会	奈良絵美	地元ゆかりの動植物保護プロジェクト
H26. 12. 13	大分県教育委員会 ふるさと学講座	奈良絵美	大分県の地元ゆかりの野菜たち
H27. 1. 24	大分県教育委員会 ふるさと学講座	奈良絵美	大分県の地元ゆかりの野菜たち
H27. 2. 12	九州病害虫研究会第89回研究発表会	鈴木智範・福本律子・姫野和洋	2014年におけるネコブセンチュウ被害圃場の線虫種について
H27. 2. 12	九州病害虫研究会第89回研究発表会	福本律子・鈴木智範・田中啓二郎・山崎修一	平成26年の夏秋トマト栽培におけるすすかび病の発生消長及び発生予察調査基準の検討
H27. 2. 19	大分県園芸技術者協議会研修会	濱田翔子	遮光資材を利用したニラの葉先枯れ抑制技術
H27. 3. 27	第59回日本応用動物昆虫学会：殺虫剤作用機構談話会	岡崎真一郎・松浦明・土田聡・園田昌司	大分県の夏秋ピーマンにおけるスピノサド抵抗性ミカンキイロアザミウマとネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態と防除対策の取り組み

(4) 研究成果発表会 なし

## 5. 研究成果の普及、技術指導

### (1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H26. 4. 15	サニープレイスファーム現地検討会	佐伯市	8	南部振興局（以降月1回実施）
H26. 5. 1	専門技術研修（基礎・茶）	農業研究部	4	研究普及課
H26. 5. 3	製茶加工研修	農業研究部	11	大分県茶業協会
H26. 5. 20	専門技術研修（基礎：作物・集落営農）	宇佐市	20	研究普及課
H26. 6. 3	普及指導員専門技術研修	豊後大野市	10	研究普及課
H26. 6. 4	専門能力強化研修（土壌肥料基礎）	豊後大野市	12	研究普及課
H26. 6. 10	普及指導員専門技術研修	豊後大野市	5	研究普及課
H26. 6. 27	無人ヘリ講習会	大分市	40	おおいたブランド推進課
H26. 6. 27	専門技術研修（基礎・茶）	農業研究部	4	研究普及課

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H26. 7. 29	トマト園芸技術者協議会	九重町	20	園芸技術者協議会
H26. 7. 30	専門技術研修（基礎・茶）	農業研究部	4	研究普及課
H26. 7. 30	第46回大分県茶品評会審査会	農業研究部	14	大分県茶業協会
H26. 7. 31	ピーマン生産者研修会	臼杵市	200	園芸振興室
H26. 8. 8	土壌研修会	豊後大野市	10	大分県茶業青年会
H26. 8. 8	土壌研修会	農業研究部	12	大分県茶業青年会
H26. 8. 20	白ねぎ生産者研修会	豊後大野市	15	東部振興局
H26. 8. 20	白ネギ栽培研修	場内	15	べっぷり日出農協園芸野菜花卉部会
H26. 8. 26	普及指導員課題解決研修(普通作)	宇佐市	20	研究普及課
H26. 8. 27	大分いちご生産者ブロック別栽培研修会（中部、南部、豊肥）	全農おおい た3階	31	大分県いちご販売強化対策協議会
H26. 8. 27	大分いちご生産者ブロック別栽培研修会（東部、西部、北部）	農業文化公園	80	大分県いちご販売強化対策協議会
H26. 8. 27	ドリンク茶専用法人生産対策研修会	農業研究部	20	県内ドリンク茶法人
H26. 8. 28	ピーマン園芸技術者協議会研修会	臼杵市	23	園芸振興室
H26. 8. 28	ピーマン園芸技術者協議会	臼杵市野津町	25	園芸技術者協議会
H26. 9. 4	大分県茶業協会茶園管理研修会	大分市	28	大分県茶業協会
H26. 9. 8	ハウス内環境制御研修会	教育会館	50	園芸振興室
H26. 9. 29	大分県茶品評会次年度対策研修会審査会	大分市	50	大分県茶業協会
H26. 10. 1	紅茶ワークショップ	農業研究部	32	九州沖縄農業試験研究推進会議 茶業推進部会
H26. 10. 16	土壌診断研修会	豊後大野市	10	JAおおいたピーマン部会 豊後大野支部ピーマン研究会
H26. 10. 20	大分なら広域共販技術者協議会役員会	大分市	10	中部振興局
H26. 12. 5	施肥・防除対策研修会	大分市	150	おおいたブランド推進課
H26. 12. 5	平成26年度施肥防除対策研修会	大分県教育会館	150	大分県、大分県肥料植物防疫協会
H26. 12. 9	JA竹田事業部トマト部会荻支部反省会	竹田市荻町	70	JAトマト部会荻支部
H27. 1. 15	企業フォローアップセミナー	大分市	100	農林水産研究指導センター本部
H27. 1. 23	北部地域白ネギ若手生産者勉強会	豊後高田市	20	北部振興局
H27. 2. 9	大分県園芸技術者協議会いちご栽培研修会	農業研究部	20	大分県園芸技術者協議会
H27. 2. 12	平成26年度九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会	諫早市	50	九州沖縄地区病害虫防除所職員 連絡協議会、九州農政局
H27. 2. 17	トマト園芸技術者協議会	宇佐市	25	園芸技術者協議会
H27. 2. 23	農薬指導士認定研修	大分県教育会館	140	おおいたブランド推進課
H27. 2. 24	土壌物理性診断研修会	大分市	13	おおいたブランド推進課、おおい た有機農業推進協議会
H27. 2. 27	ピーマン園芸技術者協議会研修会	農業研究部	25	園芸振興室
H27. 2. 27	ピーマン園芸技術者協議会	農業研究部	20	園芸技術者協議会
H27. 3. 5	白ねぎ園芸技術者協議会研修会	北部振興局	25	大分県園芸技術者協議会
H27. 3. 5	大分県園芸技術者協議会研修会（白ネギ）	宇佐市	20	大分県園芸技術者協議会
H27. 3. 5	チャトゲコナジラミ対策研修会	大分市	29	大分県茶業協会
H27. 3. 23	平成26年度茶技術研修会	杵築市山香町	41	大分県茶業協会

## (2) 受入研修

### ①長期研修者受入

氏名	所属	研修内容	期間
上野 純輝	農業大学校	夏秋ピーマンの肥料欠乏試験及び製鋼スラグ効果試験	H26. 6. 10～H26. 11. 14
吉田 克成	農業大学校	夏秋トマトの裂果防止技術	H26. 9. 3～H26. 11. 20

### ②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	22	156
団体等職員	17	87
普及指導員	34	75
学生	8	6
海外研修者	0	0
その他	1	39
水田農業グループ	1	2

## (3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
ハダニ類に対する有効薬剤の選定	農業大学校農学部総合農産科川辺亮平氏の卒業論文指導	農業大学校施設で圃場試験および室内実験を実施

## 6. 受賞及び学位の取得等

### JGAP認証取得

取得組織名	認証品目	審査基準	初回認証日 (有効期限)	認証登録番号	認証審査機関
農業研究部	茶(生葉・荒茶・仕上茶)	JGAP茶 2 012	2015年2月25日 (2017年2月24日)	MIC-S-4 400002 6	インターテック・サーティファイケーション株式会社